

2018
平成30年

新春号

落合かつひろ市政報告

動かせ平塚。

選ばれるまちく、取組を加速

加速させたい施策が2つあります。「全体最適」と「がんばる事業者の支援」です。「全体最適」とは、市全体の立場から市民にどうしてしかばん良い方法を考えること。たとえば2018年度に策定する「地域福祉計画」では、これまでの高齢者、障がい者、生活困窮者などの枠を取り払った内容を考えます。「がんばる事業者の支援」では、イクボスをはじめとした「働き方改革」を発展させるとともに、「創業」や「公募事業への企画提案」をまちぐるみで支援していきます。今回は、これまでの取り組みを紹介いたします。

チャレンジするまちづくり

時代の変化に対応し、他市に先駆けたチャレンジを続けています。

◆子育て支援

昨年2月（県内初）

保育士確保のための貸付金制度を新設。2016年4月（県内初）市長

と幹部職員がイクボス宣言。4月（湘

南地域の市で初）小児医療費の通院助成対象を中学校3年生まで拡大。

◆医療・健康

昨年4月（湘南西部

二次保健医療圏で2番目）市民病院が東海大学医学部付属伊勢原病院に

続いて「救命救急センター」に指定。2016年10月（県内初）健康づくり推進条例を施行。6月（全国初）簡易がんチェックシステム導入。

◆防災・救急 昨年8月（県内初）新しいうれしい洪水想定に基づく国・県・市・気象庁合同の洪水対応訓練。1月（県内初）地震による延焼可能性が高い



魅力アップが進む湘南平で

活力とにぎわいのあるまちづくり

◆龍城ヶ丘に海岸公園 昨年6月に創設されたPark-PF制度を生かした「全国初」の事業として、龍城ヶ丘プールの跡地などを公園として再整備する計画です。

2020年の東京五輪前に、海の眺望が楽しめるカフェ、観光情報発

信や津波避難の機能を持つ施設、駐車場やトイしなどの整備を、民間資金を活用して進めます。

◆中心市街地の活性化

ららぽーと湘南平塚の周辺では、済生会湘南平塚病院が開設されました。

見附台周辺地区では、2019年4月の開館を目指し、崇善公民館と市民活動センター合築施設の整備を進めています。また、2021年の開館を目指して、新文化センターや商業・業務施設、公園・緑地の整備計画を進めています。

◆ツインシティ 平塚市の新しい

「北の核」となる大神地区に、イオンモールなどの立地を進め、2020年のまちびらきを予定しています。◆高村団地の再整備 JRの団地再生事業に合わせて、医療・福祉の拠点整備を働き掛けていきます。

子どもから お年寄りまで 人にやさしさしまちづくり

高齢者福祉を充実

◆ よろず相談センターは13か所に

高齢者やその家族などの保健・福祉・介護に関する身近な総合相談窓口を、5か所増やして13か所にしました。保健師・看護師、社会福祉士、主任ケアマネージャーなどが力を合わせ、みなさんを支えます。

さらに、認知症の方やその家族の相談支援をする認知症地域支援推進員を各センターに配置しました。

◆ 認知症の初期集中支援

認知症初期集中支援チームを昨年4月に設置しました。

専門医の指導のもと、複数の専門職が家族を訪問し、かかりつけ医と連携しながら適切な治療につなげ、自立生活をサポートします。

◆ 在宅医療・介護連携支援センター

昨年10月、医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会と市が相互協力協定を結び、栗原ホーム内に開設しました。

このセンターを中心に、地域の医療・介護情報を共有するなどして、地域包括ケアシステム（住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようとする地域の包括的な支援・サービス提供体制づくりを推進していきます。

◆ 回復期病床を確保

病院のベッドには、急性期・回復期・慢性期などがあります。このうち、急性期医療から慢性期医療や在宅医療・介護への橋渡しをする回復期病床を確保するため、補助制度を新設し、ベッド増床を支援。医療と介護を総合的に充実し、地域包括ケアを推進しています。

◆ 子育て支援を推進

保健センターに、子育て世代包括支援センター「ネウボラルームはぐくみ」を昨年4月開設。保健師や助産師らが、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を、ワンストップ窓口で進めています。特定不妊治療費の助成件数も増やしました。

◆ 公立園で初めて、こども園開設

昨年4月、公立園では市内初となる認定こども園「港こども園」を開園。つどいの広場「ぽけっと」や学童保育も併設しています。

◆ 教室にエアコン整備

今年度からの3年間で小中学校の普通教室にエアコンを整備しています。音楽室、図書室などには整備済みです。また、小学校のパソコン入替えに合わせてタブレット端末を導入。災害時などの複合活用は県

内初です。

子どもの数は減っているものの、発達に課題がある子どもが増えていたため、専門相談員や巡回相談員を新たに配置。また、介助員や学習支援補助員、図書館司書、スクールカウンセラーなども充実させています。

◆ 学童保育を学校内に

民間借家にある岡崎と神田の学童保育を、今年度中に岡崎小と神田小の余裕教室に移します。

市内には39の学童保育があります。そのうち18か所は民間借家を使っていますが、老朽化や狭いなどの課題があります。引き続き、学校の余

◆ 新入学用品費の額と時期を改善

一定の要件を満たす家庭に支給している「新入学用品費」の支給額を、今年度から増額（2万470円を4万600円）するとともに、支給時期を中学校1年の7月から小学校6年の3月に前倒します。

◆ 小児入院治療を単独で担う

これまで平塚市、大磯町、二宮町の小児入院医療は、市民病院、平塚共済病院、東海大学医学部付属大磯病院の3病院が担ってきました。しかし、2016年4月からは、市民病院が単独で担っています。

◆ 市民病院は、引き続き救命救急医療や小児・周産期医療など、市民の命を守る政策医療に取り組みます。